

## 第4回 離島振興のあり方検討委員会 議事概要

日 時：平成28年3月3日（木） 9：00～11：20  
場 所：中央合同庁舎2号館地下1階 高層棟国土交通省会議室A  
出席委員：清水座長、小島委員、山田委員、婁委員

### 1. 主な議事

- 事務局より、第3回離島振興のあり方検討委員会指摘事項、離島と企業をつなぐ「しまっちゃんぐ」報告、「離島暮らしの満足度調査」中間報告、本検討委員会報告書素案について報告をし、意見交換を行った。

### 2. 離島での観光と海業について

- 海洋資源を活用した海業を産業化するためには、漁業と観光業等が、地域の中で一体となって、「融合」して取組を行うことが特に重要となる。そのうえで、従来の観光とは異なる体験や参加型の場作りが重要である。
- 離島での滞在型観光の創出の必要性を感じており、そのための仕掛けが必要である。そのためモニターツアーや、行き帰りのフェリーの中で観光情報を提供して期待感を仰ぐ仕掛けもできるのではないか。また、日本離島センターで「しまの百名山」という取組を始めた。
- 「観光促進」というありふれた言葉ではなく、「島旅の取組」のような取って異なった言葉を使う方が、差別化ができて良いのではないか。
- 半島と離島の位置関係を活かして広域観光ルートをつくり離島と半島の観光振興を一緒に行えるケースもあるのではないか。
- 従来、中間支援組織的役割を担っていた市町村や漁協が弱体化している現状があるため、経済性やサービス、アイデアの部分で補強できる中間支援組織をつくるのが大事である。

### 3. 離島での医療と教育について

- 離島専門医であることに誇りを持てるように、「離島」という名称を強調したい。離島の看護師についても、離島という環境のもとでトレーニングを行ったからこそ、医師の代行として看取りや救急蘇生をすることが出来るということを裏付けられると良い。
- 離島でのヘルスプロモーションについては、離島に滞在する中で健康診断をしながら、海業や観光と結び合わせることが良いと思われる。
- 離島専門医を目指す学生のために島に宿舎等の安価で宿泊できる施設があると、若者が離島に行く機会が増え、人の流れが出来てくるのではないかな。
- 医療は対人的なサービス業である。離島地域には濃密な人間関係があり、医療人に必要な人とのコミュニティーを学ぶにはふさわしい場所である。
- 離島の医療のテーマについては、「島の魅力を十二分に満喫しながら住み続けるための課題」等のように、前向きな言葉の整理が必要でないか。

### 4. 企業・組織・人材と離島のマッチングについて

- 企業と離島とのマッチングビジネスの展開を考えた場合は、基本的ルールの提示が必要である。
- マッチングは、従来のような金銭的取引関係のみだけでなく、「取組」でなければならない。

- マッチングすることによって、個々の組織での経済優位性ではなく、システムとしての経済性や競争力を高めていくことが必要である。
- マッチングについては、地方金融機関を巻き込む点を加えていただきたい。また、離島の取組について、ファンドを用いた仕組みづくりも可能なのではないか。
- マッチングにおける地域金融機関の役割として、まずは地元活性化のためのコンサルティングを行うことが良いと考えられる。
- 地域金融機関とのマッチングにおいては、ファンドマネージャーがいけないことが課題であり、ファンドマネージャーを育成するメニューがあるとよい。
- 難しいかもしれないが、離島にサテライトオフィスを置いた企業への税制優遇措置等も、検討できないか。
- 海業と観光という可能性のある産業を振興しつつ、クアオルト（ドイツ語で「療養地・健康保養地」を指す言葉）的な発想で、離島だからこそ可能になる医療や教育とのマッチングをうたうことは重要である。
- 「企業・組織・人材と離島とのマッチング」という言葉は部分的すぎるのではないか。金・人・スキルという言葉で、多面的にマッチングを捉える必要があると思う。

#### 5. 情報発信について

- 島の情報発信方法については、情報に付加価値をつけたりする等多面的な切り口でアピールしてほしい。
- 島の魅力の情報発信について、島の歴史や文化等からストーリーを立てることや、たとえば多言語で説明を行う等、インバウンドを念頭に置いた発信方法も必要であるのではないか。
- 日本離島センターからの情報発信は重要であり、移住者向けの情報だけでなく、医療・介護関係者の人材確保のための離島のイメージづくりが必要である。

#### 6. 報告書の構成等について

- 従来の離島に関する議論の中では、居住推進のための必要条件について主に取り上げられ、離島の魅力が強調されてこなかったが、離島こそが日本の隠れた資産であることを前面に出し、離島の魅力を敢えて強調して、離島暮らしや旅、離島での様々な取組は楽しく、かつ重要であるという前向きなとらえ方でアクションプランに記載することが重要である。
- 「島の暮らしの満足度調査」の中で見られた「住み続けたい」という回答を前面に出し、どうしたら住み続けることができるかを議論したということを報告書に記載すると良い。
- 第2章には、観光及び海業のための施策の方向性が挙げられているが、第3章には方向性がないため、両者の整合を図るため、第3章の最後に施策の方向性を記載した方が良い。また施策の方向性の3つ目として、中間支援組織とマッチングの内容を加えると、その後のマッチングの議論に繋がると考えられる。
- 「第5章今後の新たな離島振興施策のための提言～離島振興のアクションプラン～」では、医療と教育に関する記述が少し不足しているように思われる。
- 「島の暮らしの満足度調査」の結果として課題に挙げられた中で、アクションプランの中身に欠けている大きな課題は交通問題である。あえて交通問題に触れていない点を記載しておく必要があると思う。
- 航路や航空路の問題は報告書に別途添付ではなく、観光の部分に書き込むことも一つの方法ではないか。
- 二地域居住についての記述もあると良いのではないか。
- 離島では、ICT等により新たな就業機会もできているという面も強調すべきである。

- 日本は島国であり、島の資源を活かすことが日本の発展に資し、重要であるという視点を入れることが良い。

#### 7. その他

- 「離島の暮らしの満足度調査」の結果は、離島の属性に応じてまとめることが重要であると思う。
- 離島を前向き捉えていくためには、離島間の競争が必要であると考えられる。敢えて順位付けすることによって離島の活性化に繋がるのではないか。

以上